

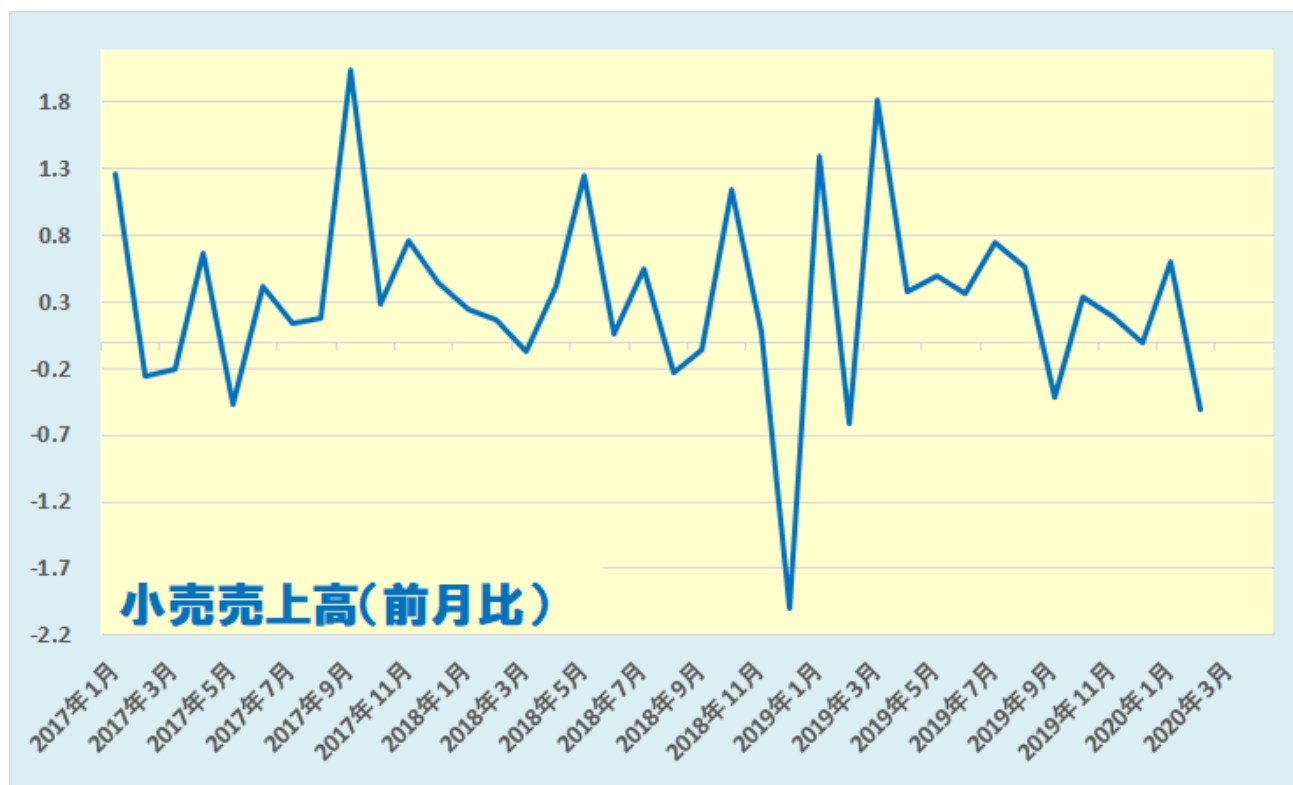
NY 市場レポート (前日 21 時 00 分～午前 5 時 30 分まで)

主要な米経済指標の結果

2 月小売売上高 (前月比) -0.5% (予想 0.2%・前回 0.3%⇒0.6%)

2 月小売売上高[除自動車] (前月比) -0.4% (予想 0.1%・前回 0.3%⇒0.6%)

2 月の米小売売上高は、市場予想を下回り、5 カ月ぶりのマイナスとなった。自動車・同部品が-0.9% (前月+0.8%)、電気製品が-1.4% (+0.6%)、建設資材が-1.3% (+3.3%)、食品飲料は 0.0% (-0.2%) だった。さらに、百貨店は-0.2% (-0.1%)、飲食店は-0.5% (+0.8%) だったが、インターネット通販などの無店舗は+0.7% (+0.2%) だった。一方、変動の大きい自動車・同部品を除いた売上高は、前月比-0.4%、前年比は+4.2%だった。

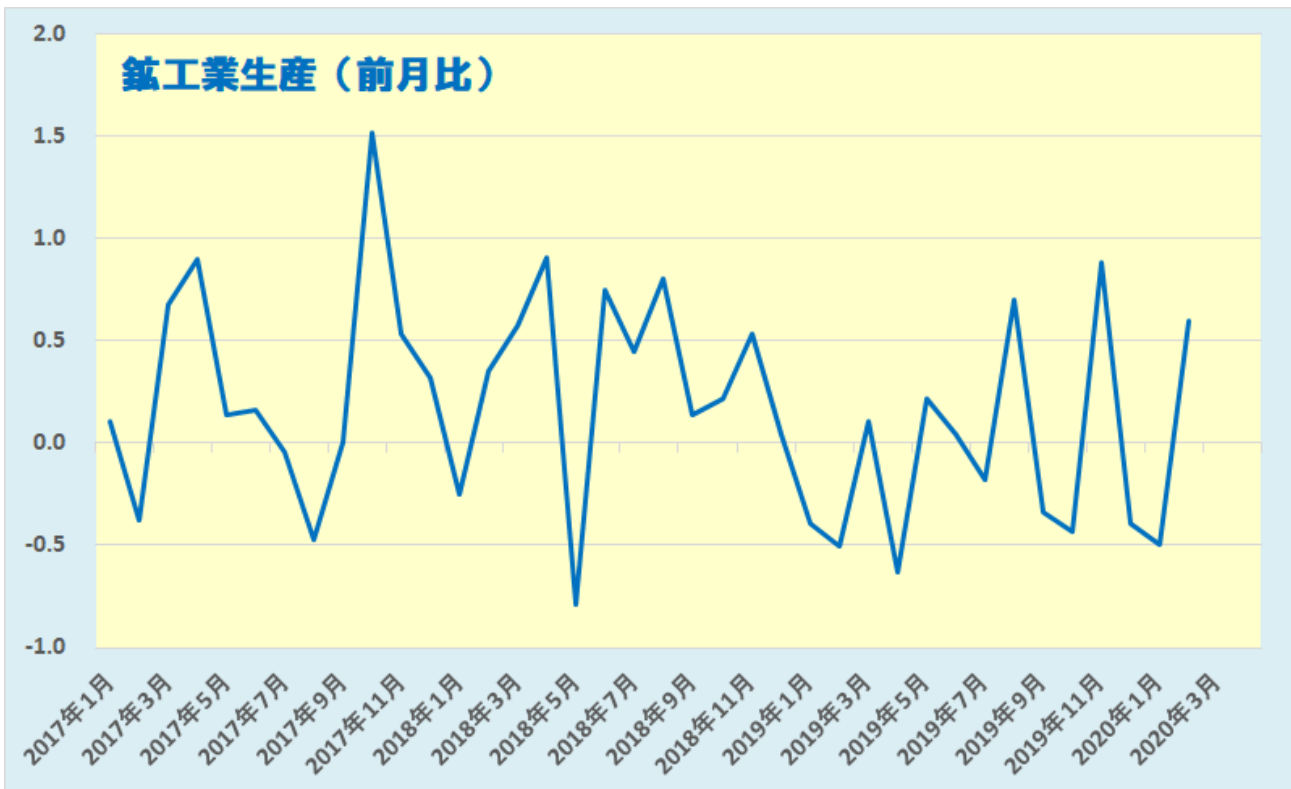


データを基に SBILM が作成

2 月鉱工業生産 (前月比) 0.6% (予想 0.4%・前回 -0.3%⇒-0.5%)

2 月設備稼働率 77.0% (予想 77.1%・前回 76.8%⇒76.6%)

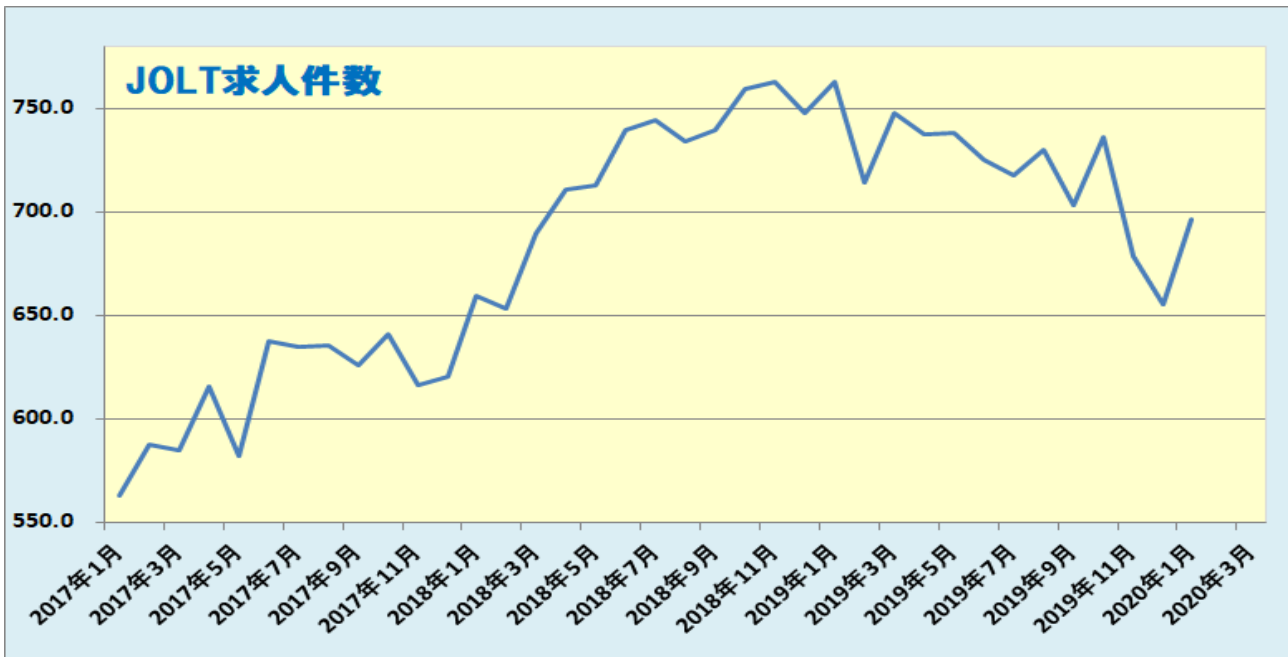
2 月の米鉱工業生産は、市場予想を上回る伸びとなり、3 カ月ぶりのプラスとなった。製造業が+0.1% (前月-0.2%)、電力・ガスが+7.1 (-4.9%)、鉱業は-1.5% (+1.0%) だった。一方、2 月の設備稼働率は市場予想を下回ったものの、前月からは上昇した。



データを基に SBILM が作成

1月 JOLT 求人件数 696.3 万件（予想 640.1 万件・前回 642.3 万件⇒655.2 万件）

1月の JOLT 求人件数は市場予想を上回り、3ヵ月ぶりに増加した。雇用市場が引き続き堅調だったことが示された。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大前の数値であることから、今後の落ち込みを懸念する声もあった。雇用された労働者は 580 万人、自発的離職者と解雇者の合計は 560 万人となり、前月からほぼ変わらずとなった。



データを基に SBILM が作成

3月 NAHB 住宅市場指数 72 (予想 74・前回 74)

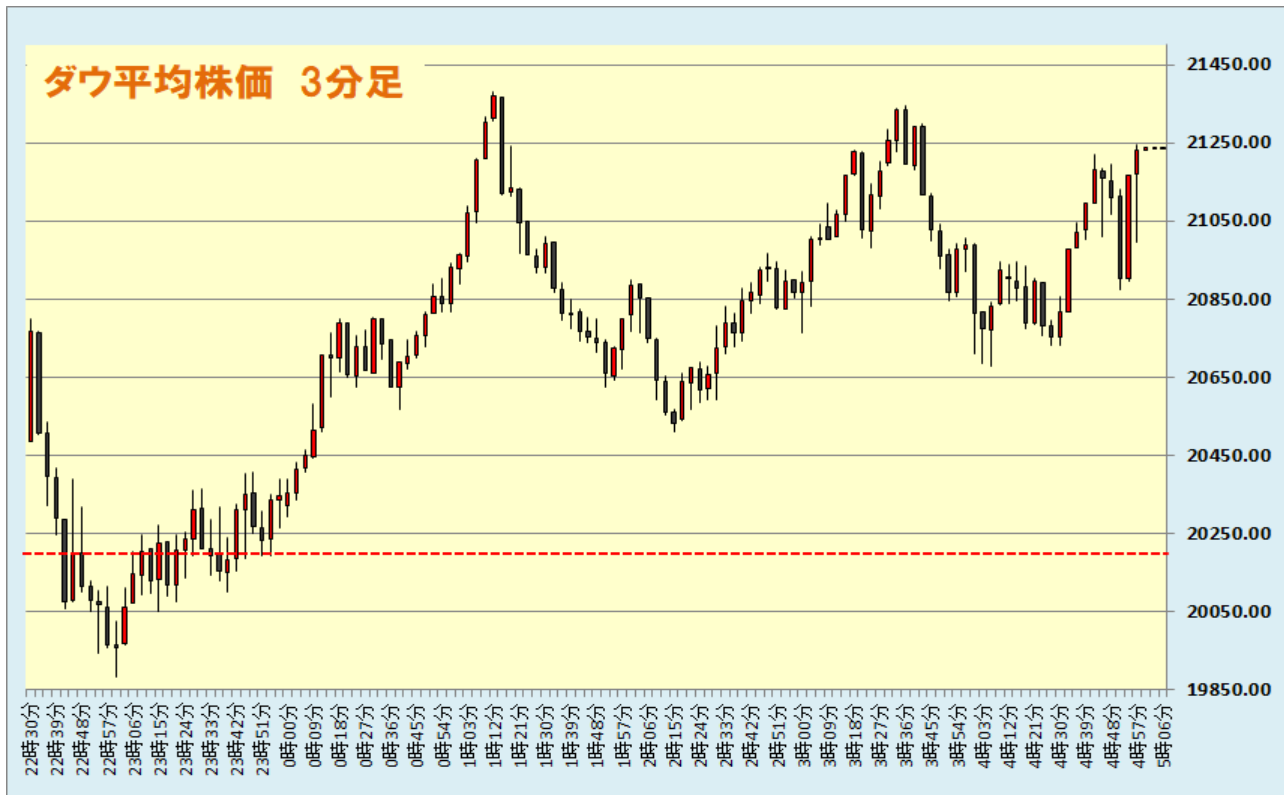
3月の米 NAHB 住宅市場指数は、市場予想を下回り4ヵ月ぶりの低水準となった。一戸建て販売の現況指数は79(前月81)、6ヵ月先の販売見通し指数は75(79)と昨年9月以来の低水準、購買見込み客足指数も56(57)といずれも低下したことが影響した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で住宅市場全般の活動が落ち込んでいる可能性が示された。



データを基に SBILM が作成

ダウ平均は一時 2 万ドル台割れも、その後は大幅上昇

米株式市場では、新型コロナウイルスの感染拡大が長期化するとの懸念を背景に、投資家のリスク回避の動きから序盤はやや軟調な動きとなる場面もあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を巡るトランプ米政権の景気刺激策が 1 兆ドル（約 107 兆円）規模になるとの報道や、米 FRB が企業の資金繰り支援策のために CP（コマーシャルペーパー）を購入すると発表したことが好感され、主要株価指数は軒並み堅調な動きとなり、大幅反発となった。ダウ平均株価は、序盤はやや上値の重い動きも見られ、一時前日比 306 ドル安まで下落し、約 3 年 1 ヶ月ぶりに節目となる 2 万ドルを割り込んだ。しかし、その後は上昇に転じて前日比 1190 ドル高まで上昇、高値圏を維持して 1048 ドル高で終了した。一方、ハイテク株中心のナスダックは、6.2% 上昇の 430 ポイント高で終了した。



データを基に SBILM が作成

セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	素材	20.91%	1	DOW	20.90%
2	ヘルスケア	7.78%	2	トラベラーズ	13.29%
3	消費財	6.67%	3	インテル	12.26%
4	テクノロジー	6.60%	4	ウォルマート	11.71%
5	通信サービス	6.51%	5	ウォルグリーンBA	10.03%

データを基に SBILM が作成

ドルは主要通貨に対して上昇、ドル/円は一時 107.86 まで上昇

NY 市場では、欧州時間からドルが対欧州通貨などに対して堅調な動きが続いていたこともあり、対円でも序盤から堅調な動きとなった。さらに、FRB が企業の資金繰り支援のために CP（コマーシャルペーパー）の購入を発表したことを受けて、一時マイナス圏まで下落していた米主要株価指数が軒並み上昇に転じ、上げ幅を拡大し、ドル円・クロス円も底固い動きとなった。その後、新型コロナウイルスの感染拡大を巡るトランプ米政権の景気刺激策が 1 兆ドル（約 107 兆円）規模になると報道されたことを受けて、ダウ平均株価が一時前日比 1190 ドル高まで上昇するなど、主要株価指数が軒並み大幅上昇となったことから、ドル円・クロス円は堅調な動きが続いた。さらに、米 10 年債利回りが 0.730% から 1.098% まで上昇したことも加わり、ドル/円は 107.86 まで上昇し、アジア時間序盤に付けた 105 円台から大きく上昇した。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様自身でお願いします。